

日時 : 2012年4月26日(水) 13:00 ~ 17:00

場所 : 塗料報知新聞社 会議室

出席者 : 窪井要((有)久保井塗装工業所)、早川政男(第一塗装工業(株))、小柳拓央((有)小柳塗工所)、
木下稔夫((地独)東京都立産業技術研究センター)、高橋大(株三王)、島田哲也(旭サナック(株))、
平野克己(日本塗装機械工業会)、倉持保雄(日本工業塗装協同組合連合会)
アドバイザー: 坂井秀也(日本工業塗装協同組合連合会技術顧問)
オブザーバー: 藤井俊治(株三菱化学テクノロジーサーチ)
事務局: 有馬弘純(塗料報知新聞社)

11名 敬称略

***** 議 題 *****

1. サポイン・セミナーの報告

工塗連倉持専務から発表があり、3/29開催の名古屋・4/5開催の東京において、参加人数は共にスタッフを入れて80人近くであった。要した費用は5万円弱であった。残金は13万円となった。今回は、行政の資料に基づくセミナーであったため有料にできなかったが、今後のセミナーにおいては、資金面での工夫を考える必要がある。

なお、5月8日に九州・佐賀のかわでん社において説明会を開催する。木下氏、窪井氏、内山氏、高橋氏で対応。また、高橋氏はパウダー協北海道支部で6月20日に講演、9月に同大阪支部での講演を予定している。

2. 幹事会の報告

同日午前10時から開かれた幹事会において選任した新体制や理念、テーマについて報告した。

<新体制>

①工業塗装高度化協議会

会長	山崎 秀雄	(日本工業塗装協同組合連合会会長)
副会長	里見 多一	(日本塗装機械工業会会長)
副会長	渡邊 忠彦	(日本パウダーコーティング協同組合理事長)
	林 正明	(日本工業塗装協同組合連合会副会長)
幹事	平野 克己	(日本塗装機械工業会専務理事)
幹事	倉持 保雄	(日本工業塗装協同組合連合会専務理事)
幹事	福田 良介	(日本パウダーコーティング協同組合専務理事)
事務局	有馬 弘純	(塗料報知新聞社)
アドバイザー	坂井 秀也	(日本工業塗装協同組合連合会技術顧問)

②環境技術分科会

分科会会長	窪井 要	(日本工業塗装協同組合連合会理事)
分科会副会長	内山 貴識	(日本塗装機械工業会 技術副副会長)
	高橋 大	(日本パウダーコーティング協同組合監事)
委員	早川 政男	(日本工業塗装協同組合連合会理事)
委員	島田 哲也	(日本塗装機械工業会 技術部会長)
委員	小泉 栄	(日本工業塗装協同組合連合会理事)
委員	杉山 博英	(日本塗装機械工業会 技術副副会長)
セミナー実行委員長	内山 貴識	(日本塗装機械工業会 技術副副会長)
セミナー実行副委員長	高橋 大	(日本パウダーコーティング協同組合監事)

<理念>

明日の日本を切り拓く工業塗装の追求

<テーマ>

- ①低炭素塗装の実現、②産業廃棄物の対策、③サポインの浸透支援、④教育機関の設置、⑤塗装の信頼性の向上・ネットワーク化

3. 今秋のセミナーについて

3月7日に開催した環境技術分科会／サポイン・セミナー実行委員会において「見直そう日本の塗装」セミナーが提案されたが、サポインの浸透支援の観点から、サポイン採択にまでのプロセスの紹介をするのが望ましいとの意見から、日本工塗連の理事会が開かれる11月15日に「サポイン採択を受けて」のテーマでセミナーを行うことを決めた。

また、サポインに関しては、川下製造業から課題等のヒアリングをする機会をもつこと、塗装に関心のある行政機関や大学(教授)の情報を紹介することも必要だとする意見があった。

現在、分科会の運営費が定められておらず、3団体より運営資金を充てるなど活動への団体支援に関する意見が出され、各団体で協議することとなった。

4. 今後の予定

環境技術分科会開催日予定:6月21日(木)、8月22日(水)、10月24日(水)、11月15日(木)。

次回は、掲げた5つのテーマについて優先順位や重点化などを検討する。

※工塗連倉持専務から同連合会の事業活動及び活動予定の発表があった。また、VOC31%削減したが、より精度の高い23年度調査の仕方を検討し、業界のデータベース化を目指す。※今回初の参加となった東京塗装工業組合の小柳塗工所代表の小柳拓央氏から、自社紹介、技術士会紹介(金属部会に在籍)、工塗連会員として出席したTPP会合について報告した。

————— 以 上 —————